

診療業務と臨床研究の両立は可能か？ 世代別の至適アプローチを考える

Accommodating Clinical Research within the Clinical Practice

慶應義塾大学 循環器内科

香坂 俊



Shun Kohsaka

Department of Cardiology, Keio University School of Medicine

対象者 医師

Target Doctor

診療業務と臨床研究の両立は確かに難しい。しかし、診療と直結した研究を進めることができるのは臨床医の特権である。近年、研究の成果が診療の現場に入ってくるスピードはいや増しており、直接的にせよ間接的にせよ研究実務に関わっていくことはよき臨床医となる上でもはや避けて通れない。このセッションではこうした現状を踏まえ、両者のバランスとりかたについて世代別のステージ別に議論を進めていきたい。具体的には、臨床一筋に突き進まなくてはならないステージでどう研究を意識していくか、そして周りの様子を見渡す余裕ができたステージでどのように臨床研究の手ほどきをうけるか、さらに独り立ちを目指すステージでどう臨床研究の立ち上げを行っていくかというところに焦点を絞ってみたい。臨床と並行して研究を進めることは、患者さんとの1対1の関係を越えて、より広い範疇で医学の発展に貢献しうる。このセッションを通じて少しでも若手医師の疑問に応えることができれば幸いである。

The practice of medicine combines both science and art, and the role of science in medicine is clear. However, challenge remains in how the young physicians conduct their clinical research projects during early phase of their career. Within this session, we aim to discuss the practical tips in by the various stage of their career. We hope that the tips would be an aid to implementation in clinical research for the clinicians that are active in their practice